

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

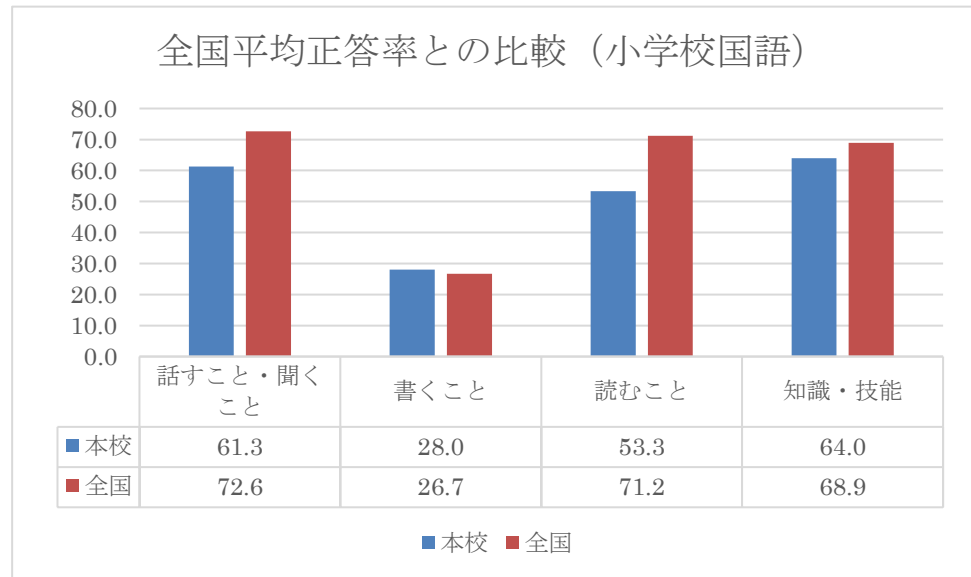
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「書くこと」の領域は全国平均よりやや上回っていますが、それ以外の領域では全国平均を下回る結果でした。無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「文章の種類とその特徴について理解する」や「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる」は全国平均を上回っていました。「複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめる」や「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う」は全国平均を下回っています。児童の誤答を調べてみると長文の内容や質問の意味を読み取ることができていないことがわかります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

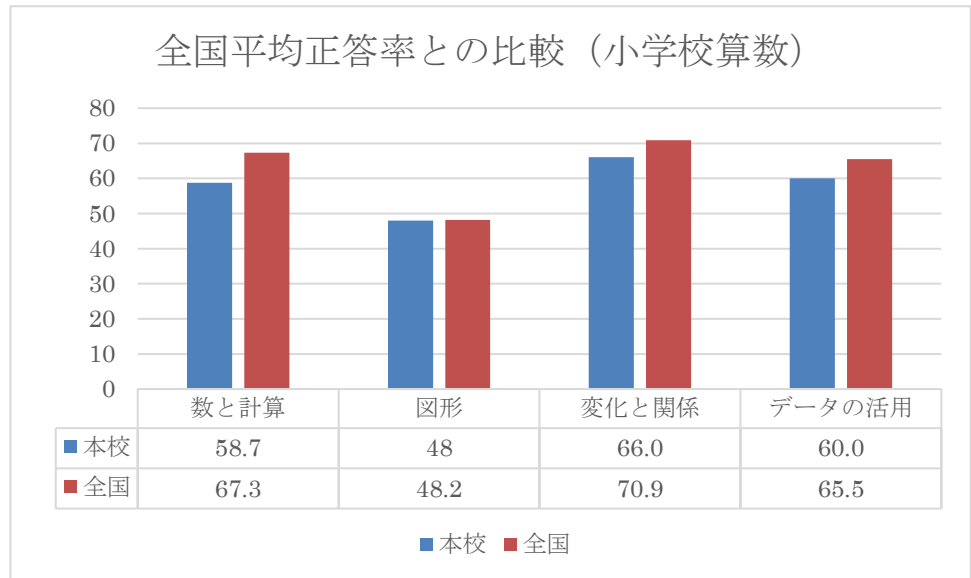
【学校では】

- 子どもが主体的・対話的で深い学びができるように、目的意識・相手意識をもたせた単元づくりを行い、インタビューやリーフレットづくりなどの言語活動の場面を設定し、表現力を向上させていきます。
- 朝の時間にスピーチタイムやスキルタイムに取り組み、対話力や基本的な文章読解力の向上を図り、視写教材での書くトレーニングを行っています。
- 漢字の読み書きなど基礎的な内容の定着を図り、国語辞典での意味調べや「ことバンク」による言葉集めを行い、語彙力を増やしていきます。

【ご家庭では】

- どの学年も毎日音読の宿題を出しています。音読することで、語彙力が増える効果があります。まだ知らない単語が多い小学生ですが、できるだけ多くの文章に触れることで語彙力を高めることができます。大変だとは思いますが、音読を聞き、「すらすら読めたね」「気持ちがかもっていたね」など励ましの言葉かけをお願いします。
- 小学生から読書習慣がある子どもは、正しい言葉遣いができるようになり、言語能力が身に付きます。歴史・物語・文学・図鑑、、、どんなジャンルの本でもよいので、本に興味をもつよう促してください。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)



(1) 結果

「図形」は、全国平均と同等の結果でした。その他の領域で全国平均を下回っています。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「正方形の意味や性質について理解する」や「加法と乗法の混同した計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる」は全国平均を上回っていました。「小数の加法や乗法を用いて、求め方や答えを式や言葉を用いて記述すること」や「百分率で表された割合について理解する」が全国平均を下回りました。

今後、日々の授業で自分の考えをもち、考えを書く活動、それを説明する活動を取り入れます。南川副小型授業でめあてをもって取り組み、話し合いを行い、振り返り・まとめをさせる活動を徹底していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 子どもが主体的・対話的で深い学びができるよう、低学年ではブロックやおはじきなどによる操作活動、高学年では図・式・言葉を使って説明する話し合い活動の場を設け、南川副小型授業による授業改善を行っています。
- 昨年度に引き続き、朝のスキルタイムやチャレンジスクール（希望者）では、計算問題等を集中して取組ませ、基礎・基本の定着を図っています。
- 今後もTT指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 算数の基礎学力は、正確に計算する力です。四則計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）ができないと授業についていくのが難しくなります。自主学習として計算力アップにつながるドリル問題に取り組むことも大切です。
- お子さんのノートや宿題、テスト等に目を通して、できているところを褒めてください。もしも分からないところがあれば、できる範囲で話を聞いてください。間違えていてもどうしてその答えになるのか考えることが重要です。あきらめず挑戦するようご支援していただくことで、粘り強さを養うことにもつながります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・自己肯定感・幸福感について》

調査項目	本校% (昨年)	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100% (90.4)	93.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	88.4% (76.2)	81.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	84.6% (90.5)	90.5%
自分にはよいところがあると思いますか。	80.8% (73.8)	83.5%
将来の夢や目標を持っていますか。	84.6% (71.8)	81.5%
学校に行くことは楽しいですか。	84.6% (90.4)	85.3%
友達関係に満足していますか。(新規)	88.4%	90.3%

生活習慣の項目については、おおむねどの項目もほぼ全国平均と変わらない結果でした。昨年度よりも改善されている項目が増えています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきたいと思えます。

自己肯定感や幸福感の項目については、全国平均と比べるとやや下回る項目もありますが、ほとんどの項目において前年度よりも高くなっています。学校目標である「自分を磨く子どもの育成」に向けて、「ほめること」を全職員が意識して、みんなで子どもたちと向き合っている成果が見られてきています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校% (昨年)	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	80.7%(78.4)	70.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	3.8% (2.4)	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	15.4% (11.9)	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	30.8% (45.2)	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	38.5% (21.4)	26.9%
「30分より少ない」	7.7% (8.1)	11.4%
「全くしない」	3.8% (4.8)	4.6%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満（6年生の目標は70分以上）の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導していきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、音読や漢字練習、計算ドリルなどを中心に読書や自学を推奨し、学年に応じた宿題を出しています。始業前に国語・算数の復習プリントに取り組み、分かるようになるまで指導しています。
- 中学校区で連携して年3回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習への支援を行い、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図っています。チェックカードでできたことをほめることで、効果が表れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉に規則正しい生活習慣の定着をお願いします。「生活振り返り週間」でも取り上げている内容でもあります。テレビやゲームの使用時間を決めるなど家庭のルール作りも、生活習慣の定着につながります。
- 6年生は70分、5年生は60分、4年生は50分、3年生は40分、1・2年生は30分が家庭学習時間です。「家庭学習のてびき」を参考に毎日達成できるよう、声かけをお願いします。